

日越外交関係樹立 50 周年記念認定事業・

JTTRI-AIRO 開設記念シンポジウム

「主要観光地におけるオーバーツーリズムの克服

及び地方観光地の活性化」

～日本とベトナム両国における持続可能な観光に向けて～

宿利会長開会挨拶

皆さま、おはようございます。運輸総合研究所（JTTRI）会長の宿利正史です。

本日は、当研究所とベトナム国家観光局及びベトナム観光開発調査研究所との共催で、日越外交関係樹立 50 周年記念認定事業であり、かつ運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所開設記念でもあります、この観光シンポジウムを開催できますことを大変嬉しく思います。

また本シンポジウムの開催にあたりまして、在ベトナム日本国大使館及びベトナム日本商工会議所のご後援を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

まず、本日、ご多忙のところ、早朝からこのシンポジウムに来賓としてご出席賜りました

- ・ドアン・ヴァン・ベト ベトナム文化・スポーツ・観光副大臣閣下、
- ・渡邊滋（わたなべ しげ） 在ベトナム日本国大使館次席公使
- ・グエン・チュン・カイン ベトナム国家観光局長官

・木ノ下忠宏（きのした ただひろ） ベトナム日本商工会議所
会頭

ほか、ベトナム文化・スポーツ・観光省の幹部の皆様にご心から感謝申し上げます。

また、本日特別講演をしていただきます

- ・グエン・アイン・トゥアン ベトナム観光開発調査研究所所長
及び
- ・蒲生篤実（がもう あつみ） 日本政府観光局理事長

さらに、本日のパネルディスカッションにご参加いただきます

- ・チン・レ・アイン ベトナム国家大学ハノイ校/人文社会科学大
学 観光学部 事業管理部長、
- ・片山健也（かたやま けんや） 北海道ニセコ町長、
- ・ホアン・ティ・ヴオン ラオカイ省サパ市観光文化部長、
- ・沢登次彦（さわのぼり つぐひこ）（株）リクルート じゃらん
りサーチセンター センター長 及び
- ・グエン・ヒュウ・イ・イエン サイゴン・ツーリストトラベル・
サービス社会長

の皆様にご厚く御礼申し上げます。

そして本日お忙しい中早朝から、本シンポジウムの会場まで足をお運びいただいた皆さま、また、オンラインでベトナム国内や日本、その他海外の多くの地域からご視聴いただいている皆さまに、心から感謝申し上げます。

さて、日本とベトナムは、本年、外交関係樹立 50 周年の大きな節目を迎えました。この間、政治・外交、経済・貿易、文化・観光などの幅広い分野において、日越両国が深い友好協力関係を築き上げてきたことは、私がここで申し上げるまでもありません。

さらに歴史をさかのぼれば、日越両国の交流の歴史は古く、私が昨日訪問したハノイ近郊のキムラン村では、千年以上も前から陶器の生産が開始され、13 世紀から 14 世紀にかけてこの村で生産された高級な陶磁器が、交易を通じて遠く日本にも数多くもたらされていたことを私は初めて知りました。さらに、この重要な歴史の発掘は、度重なる陶器の破片、陶片の出土に疑問を抱いた村人たちの執念と、ベトナム考古学に関する第一級の研究者である日本人のご夫婦の大きな貢献によって、近年明らかになったということ、キムラン村の 87 歳の古老の口から詳しく聞きました。

私にとっては、大変印象深い思い出になりましたし、観光はこれからどういうものを目指すべきなのか、という一端に触れた気がしました。

さらに、16 世紀から 17 世紀にかけての両国の深いつながりについては、去る 9 月 22 日に当地ハノイのオペラハウスで世界初演された日越両国合作オペラ「アニオー姫」に美しく結実したと伺っております。私も来たる 11 月 4 日の東京での日本初演に立ち合えることを大変楽しみにしています。

一方、COVID-19 のパンデミックやロシアによるウクライナへの軍事侵攻、さらに気候変動の問題は、世界の社会・経済に大きな影響を与え、また、冷戦後の国際秩序を脅かすに至っています。

このように全世界的に不確実性や対立が深まる中においては、重層的かつ広範にわたる人と人との交流が、従来にも増して重要になってきていると考えており、観光はそれを実現する大きな鍵を握っていると確信しております。また、地域社会の活性化や雇用の拡大などの社会的・経済的な観点からも、観光は今後一層発展が期待できる、大きな潜在力を有する分野であると考えています。

日越両国は、観光や交通の分野で COVID-19 による大きな影響を受けましたが、幸い今日では両国とも本格的な活動が再開されています。

本日のシンポジウムでは、日越両国における持続可能な観光に向けて、その一助となるべく、「主要観光地におけるオーバーツーリズムの克服」と「地方観光地の活性化」をテーマとして、講演やパネルディスカッションを行います。

また、シンポジウムの後、運輸総合研究所とベトナム観光開発調査研究所との間で、持続可能性に配慮した質の高い観光の発展に向けた研究協力を推進・強化するための覚書を締結するこ

ととしております。このような活動を通じまして、日越両国の観光分野の取組についてお互いに理解を深めるとともに、観光分野における両国の発展に貢献していきたいと考えております。

最後になりますが、本シンポジウムを主催する運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所（AIRO）は、運輸・観光分野の日本の政策シンクタンクである運輸総合研究所の2箇所目の海外拠点として、2021年4月にタイ王国バンコクに設立され今年で3年目を迎えたところです。

運輸総合研究所及びAIROとしては、運輸・観光分野において、アセアン及び南アジア地域の国々の皆様と、地に足のついた連携・協働を通じて、これらの地域の各国と日本の運輸・観光が共に発展し、そして両者の絆がより一層深まることに貢献できるよう活動していくつもりです。

なお、運輸分野におけるベトナムでの活動については、今年12月18日に、当地ハノイにおいて、ベトナム交通運輸省と共催で「持続可能な交通インフラの整備と運営」というテーマでセミナーを開催する予定です。ご興味のある方は、是非ご参加いただければ幸いです。

今後とも皆様方の温かいご支援・ご協力を頂きながら、活動を進めて参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

以上